

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	公共交通事業者等特別支援金に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	1	
政策	都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市計画課			
施策	利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	浅野和彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容		③令和3年度に取組む改革・改善内容	依然として新型コロナウイルスの影響が大きいため、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が成立した場合、交付金を活用して助成を行う。
②①に基づく取組み結果			

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内に事業所があるコミュニティバス、路線バス、タクシー	意図(対象をどうするのか)	感染対策及び事業継続の支援
②事務事業の概要	新型コロナウイルスの影響を踏まえ、感染拡大防止策及び事業継続を目的に助成する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新型コロナウイルスの影響が大きく、前年度と比較して利用客数は減少している。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	感染拡大防止、事業継続に一定程度寄与した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	補助対象台数			128	業務取得(バス、タクシー合計)
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算
事業費(千円)	0	7,356	金額(千円)	内容		0
国支出金(千円)			7,356	感染拡大防止用品購入費等		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)		7,356				

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	新型コロナウイルスの影響が大きいため、引き続き助成を行う必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	1低い		
③上記評価の理由	新型コロナウイルスの影響が大きいため、引き続き助成を行う必要がある。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	0	当初		0	R1からの繰越	
		R1⇒R2繰越				
③達成状況		補正			現年分	
④未完了・非着手の理由	令和3年度への繰越額(単位:千円)					

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	コミュニティバス運行助成事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	1	○
政策	都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	都市計画課			
施策	利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	浅野和彦			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	運行ルート、バス停留所の改善要望や高齢者等の移動確保等、コミュニティバス利用者の利便性と持続可能な運行について検討する必要がある。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	コロナ禍による新たな生活様式に対応した持続可能な運行計画を作成する。
②①に基づく取組み結果	持続可能な運行のため、消毒、換気、飛沫防止措置等を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	交通不便地域の住民、高齢者を中心とした移動手段弱者	意図(対象をどうするのか)	交通手段の確保
②事務事業の概要	市内の交通不便地区における課題解消や公共施設等の使用促進を図るため、運行事業者への一部補助などにより公共交通網の充実を図るもの。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	利用客数が前年度と比較して3割以上減少し、回復の見込みが立たないため、減少した乗客数での事業を考慮する必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	利用客数 87,445人(前年度比約34%減少)					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	コミュニティバス利用者数	129,033	131,843	87,445	業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算
事業費(千円)	48,410	46,372	金額(千円)	内容		56,647
国支出金(千円)			46,372	運行経費補助		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)	5,000	4,372				5,000
一般財源(千円)	43,410	42,000				51,647

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	運行ルート、バス停留所の改善要望や高齢者等の移動確保等、コミュニティバス利用者の利便性について検討する必要がある。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	1低い		
③上記評価の理由	超高齢社会への対応として、市民の身近な公共交通機関であるコミュニティバスの運行は必要不可欠であるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	補助金	令和2年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	補助金	48,134	48,134	当初	47,000	R1からの繰越	0
				R1⇒R2繰越	0		
③達成状況	完了			補正	0	現年分	46,372
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0		
令和3年度への繰越額(単位:千円)							0

令和3年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	新京成線連続立体交差事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	4	3	○
政策	都市活動を支える交通網整備を進めます	担当課室	道路河川整備課			
施策	利便性の高い公共交通体系の充実	担当課室長	松岡 秀樹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	早期に周辺整備工事に着工できるよう仮線撤去工事を進める。	③令和3年度に取組む改革・改善内容	仮線撤去された区域の借地返還及び周辺整備工事を進める。
②①に基づく取組み結果	仮線撤去に着手した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	新京成線高架橋	意図(対象をどうするのか)	関係機関と調整し、高架を実現させる(地元負担金を支払う)。
②事務事業の概要	本市の東西を走る新京成線を高架化し、踏切遮断による交通渋滞や市街地の分断等を解消する目的で、県が事業主体となり事業を施行する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	交通ボトルネックの解消、道路の安全性、生活環境や利便性の向上のため早期に周辺整備工事を行う必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①令和2年度の事業の成果	関連側道、交差道路整備に向け、仮線撤去に着手した。					
②成果を表す指標	指標名称		平成30年度	令和元年度	令和2年度	算定根拠
	i	用地取得率(取得済/用地面積)	100	100	100	% 業務取得
	ii	事業進捗率(事業費ベース)	86	89	90	% 業務取得
	iii					
③事務事業のコスト	令和元年度決算	令和2年度決算	令和2年度決算(事業費)の主な内訳			令和3年度予算
事業費(千円)	399,272	263,039	金額(千円)	内容		506,015
国支出金(千円)			263,039	市町村負担金		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)	354,700	215,000				399,400
一般財源(千円)	44,572	48,039				106,615

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	交差道路、関連側道等の整備が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市街地の分断解消に向け、早期完成が必要であるため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①令和2年度の計画	負担金	令和2年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	県に負担金を支出した。	212,729	437,031	当初	212,729	263,039	R1からの繰越	224,302
③達成状況	未完了			R1⇒R2繰越	224,302		現年分	38,737
④未完了・非着手の理由	事業主体である千葉県が繰越したため。			補正				
		令和3年度への繰越額(単位:千円)						129,942